

調査研究報告書

やさしい生活環境のための高齢者の 姿勢と動作に関する研究

研究代表者 片 平 清 昭 (福島県立医科大学助教授)

1996

財団法人 姿勢研究所

1. 研究目的

21世紀初頭に訪ずれる本格的な高齢化社会を目前にして、誰しものが健康で生き甲斐のある人生を過ごすことができるような長寿・福祉社会を実現することがこれからの最重要課題である。こうした社会を実現するためには、すべての人が人間として尊重されることを基本に、社会からのサービスを平等に享受でき、しかも、意欲や能力に応じて自らの意志で社会に参加できる機会を与えられることが必要である。すなわち、高齢者や障害者を含むすべての人が安全かつ快適に行動できるやさしいまちづくりが多くの人々から切望されているのである。いわゆるノーマライゼーション社会の形成である。

そのようなまちづくりのためには、高齢者や障害者などの機能低下に応じた姿勢や動作に関する諸特性について十分に把握しておく必要がある。これまでにも、人間の姿勢制御のメカニズムや生理的特性についての基礎的研究が行なわれている。しかしながら、それらの研究は必ずしも高齢化社会を前提としたものではない。本研究では、やさしい生活環境の整備のための高齢者の姿勢と動作に関する基礎的諸特性を把握・整理し、今後の各種の施策に資することを目的とした。